





主題であるビークル作品は、本人が述べているようにウィンググローブの著書が御手本であった。実物の写真と錯視させる表現方法にはスパーリアリズムの影響が見て取れる。しかし、既に高梨さんのビークル作品は、御手本や時代の流行を超越した普遍性を確立している。

素材本来の魅力を強調した最新作は、日本的な技術と文化を反映した新境地に至り、欧米の科学博物館等に展示されているミュージアムモデルの領域を超えて、美術館に展

示されるのが相応しい純粋芸術品へと昇華を遂げた。

・総じて、高梨さんの作品は、デザインがグローバル化した現実社会で、欧米の応用美術と、日本の美術工芸の価値志向性の差異を再認識させる。かつて、ヤマハの重役として、日本の高度経済成長期を近代的なデザイン製品開発で担ったデザイナーが、その傍らで、前近代的と断定されがちだった日本特有の彫鍍金の技法を進化させて、花鳥風月の美を工業製品の美に置き換えた純粋芸術品に昇華させた所以を、自らで記し、未来のモノづくり達に提唱している。

これを、GKデザインを率いて一つの時代を作り上げた栄久庵憲司初代会長が、その傍らで「幕の内弁当の美学」を著し、道具学を發明して、道具学会の設立に至った経緯と照らし合わせて、日本的な技術と文化の価値を探究することは、道具学的な意義があると考える。

・ともあれ、現実社会のモノづくりが工業↓工業↓科学へと進化する中で、「人間がより良く生きるために必要な人工物」と「美の用」に思いを重

ロンドンには、通常の博物館以外にも興味深い「道具」を見学できる場所がある。それは、保存公開住宅（これも広い意味でのミュージアムだが）である。

通常の博物館と違い、ある特定の時代の住居の中の道具を、当時の暮らしを再現するように見せているのが有難い。

昨年は、いずれもロンドン中心部にある以下の保存公開住宅を訪れた。

\*\*\*  
 ・テイケンスハウス  
 国民的作家チャールズ・テイケンス

ねて迷ったときに背中を押してくれる本である。

座右の書として、推薦する次第である。

(本会理事/札幌市立大学名誉教授)

「書籍概要」  
 高梨廣孝著『伝統工芸彫鍍金の創造力——スクラッチ・モデルという表現』飯塚書店、2025年3月28日刊  
 ISBN/JAN: 9784752260400

hiroba Report #2  
 ロンドン道具学旅行 (No.2)  
 面矢慎介